

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Influence of preconception carbohydrate intake on hypertensive disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠前の炭水化物摂取量と妊娠高血圧症候群の発症の関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research

年: 2022 DOI: 10.1111/jog.15501

筆頭著者名: 小元 敬大

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

本研究では、妊娠前の炭水化物摂取量と妊娠高血圧症候群の発症の関連について検討することを目的としました。

方法:

エコチル調査の参加者のうち、高血圧と診断されていない妊婦を対象としました。食事調査票から算出された妊娠前の炭水化物摂取量に応じて参加者を5グループに分類しました。出産が初めての人(初産婦)と出産経験がある人(経産婦)それぞれのグループで、炭水化物摂取量に応じた妊娠高血圧症候群の発症リスクを比較しました。解析時に、妊婦の年齢や体格、喫煙の有無、高度な不妊治療の有無などの背景因子を考慮しました。

結果:

エコチル調査の参加者のうち、93,265人が解析対象者となりました。そのうち、初産婦は37,387人、経産婦は55,878人でした。解析の結果、経産婦において、妊娠前の炭水化物摂取量に応じて分類した5群のうち中央のグループと比較して、炭水化物摂取量が最も多いグループでは妊娠34週以降の妊娠高血圧症候群の発症リスクが約1.31倍であったことがわかりました。この傾向は初産婦では認められませんでした。

考察(研究の限界を含める):

近年では生活習慣による妊娠高血圧症候群の発症リスク上昇が考えられています。今回、経産婦において、妊娠前の過剰な炭水化物摂取が妊娠高血圧症候群の発症リスク上昇に関与することがわかりました。これは妊娠前の食生活習慣が妊娠高血圧症候群の病因となっている可能性を示唆しています。本研究の限界としては、妊娠高血圧症候群の中でもより重要性が高い妊娠高血圧腎症を厳密に区別していないこと、炭水化物の種類や質(食事内容)については評価していないことが挙げられます。

結論:

特に経産婦において、妊娠前の過剰な炭水化物摂取を控えることにより妊娠高血圧症候群の発症リスクを下げられる可能性が示唆されました。今後、妊娠前の適正な炭水化物摂取量についてさらなる検討が必要と思われました。